

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和2年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201575-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年1月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットごと、お料理に力を入れています。施設内の畑にて地域の方の御協力を得て、利用者様と一緒にを行うようにしています。今年は初めてスイカに挑戦しました。大きなスイカができ利用者様も喜び、職員、利用者様で召し上がりました。ご家族様やご本人様の意向を少しでも叶えるように支援しています。今年は、外部からボランティアの方に来て頂けるよう力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると、写真で活動の様子がわかるお便りや地域交流の手紙が掲示されるとともに、自慢の献立メニューがアルバムに収められおり、事業所での毎日が充実している様子が覗えます。今年度は疥癬発症のトラブルに見舞われましたが、これを機に家族の事業所理解が深まり、また「声をかけてください。わからないままだと協力したくてもできない」といった地域からのエールが得られ、協力体制構築に向けて大きく前進しています。管理者を支える主任、リーダーと所内体制を整え、今後は「人員確保」「利用者サービスの向上」「地域資源の活用」を目標に掲げ、確実に実践していきたいとしており、頼もしい限りです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、各職員が確認しやすいように掲示をしている。月間目標も行っている。	12月の職員会議では理念を振り返る時間を設けています。また昨年度から始めた3ヶ月ごとの月間目標はカラープリントして掲示のうえ、マネジメントサイクルにも乗せて意識継続を図っています。	現在は管理者発信の目標ですが、職員全員で目標設定できるとさらに良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域と交流がもてるように、日常的に対応をしている。	建物のオーナーは大変親切で、毎年交替する町内会長への挨拶も一緒に出向いてくださいます。開設6年目となり、ベンチを組み立てていると近所の人が手伝ってくれたり、単独外出で助けられたりと、周知が実感できるようになった今日この頃です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二か月に一回運営推進会議を行い施設での活動内容を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時意見交換の場を作りサービス向上に向け活かしている。	開催日は家族が出席しやすい曜日にも組み込み、多い時は8名の家族が顔を揃えるほか、理美容、訪問マッサージ、シルバーフィットネス店長など、固定メンバーも増やしています。今年度は疥癬発症のため、予定通り開催できず、市役所にも届け出ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者へ出席して頂き密に連携がとれるよう行っている。	介護保険課にはわからない点はすぐに電話で確認し、丁寧に指導してもらっており、運営推進会議にも年に一度は出席してもらっています。市が主催する身体拘束、認知症、口腔ケア、基本医療等の研修にも積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々会議で理解いただける様職員には話している何かがあればそれについて話し合いの場をもうけ拘束のない様に取り組んでいる。	「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を3ヶ月ごとに実施し、転倒リスクへの対応等事業所内での事例検討をおこなっています。現状、例外三原則にかかる拘束事例はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関して学べていないが防止に努める様職員で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に関しては現状出来ていない、管理者については学び支援を行えるよう対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長より契約前、契約時細部まで十分説明を行っている。ご家族様からの問合せがあれば対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、利用者様と時間を作り反映している。各職員に反映できるように努めている。	写真をたくさん掲載した通信『ジョイ上足洗だより』を毎月発行しています。6月、12月と年2回、食事を兼ねて家族会を開催、1年間の様子を「笑顔をありがとう」としてDVDにて鑑賞した日は、涙を流して喜んでくださり、励みとなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に面談を行い職員会議を開催して意見を反映させている。	職員会議を毎月開催し、ユニット毎の会議にも管理者が出席、意見を把握しています。また、職員配置は厳しく管理者も夜勤に入らざるを得ない状況があることが幸いし、職員からの相談は日常的に聞くことができます。	疥癬対応に加え、管理者も月7日夜勤に入っており、人員不足は深刻で、職員の疲弊も心配されます。早期改善を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人が達成感を持てる環境を作れるように見直している資格、研修へ積極的に受けられる様に進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ランクアップ試験を行っている。外部研修などの声掛け、機会を確保できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は図れていない社内勉強会を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行う、入居後本人とコミュニケーションを図り安心した生活を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望不安な事があれば早目に連絡を取る関係づくり努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話をよく聞きADLを見極めその人に合った福祉用具の利用又他のサービスを利用できるように努める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人ができる事を見つけ出し関係を築いていける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と密になり話し合い協力して頂けるように促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、ご家族様馴染みの方が来れる様環境作りを行っている、全ての利用者様に出来ない。	化粧品店勤務だった人はこだわりあり、「この色で」という指定があがったり、パン好きの人のために朝食に時々提供したり、毎年妹と旅行に行く人や、息子とクラシックコンサートに出かける人、正月に自宅に2泊した人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話しやすい座席にする。話題ができる様職員が間に入り対応をしている。TVが見やすい席を作る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも必要に応じて、本人、家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族様からの情報を取り本人の意向に添えるように努めている。	実践者研修の課題として一週間取組んだ結果、気持ちを掴むに至り、実現に向け働きかけ、2年かけて家族と食事に出かけた、との例もあります。この経験を通して、認知症で不安を抱えている人の気持ちを推し量ることの大切さを学び、職員の視点が変わってきています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人、ご家族様に細かく聞き取りを行うが入所後も把握できるように確認を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人1人1人心身状態を把握できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で意見を出し合い介護計画を作成している。	サービス担当者会議は主任と介護支援専門員のみでおこなっています。ただし、各階を主任が統括しているため、職員会議やフロア会議の内容も含み情報が一元化、現場の声が反映された介護計画書に結ばれていると自負しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや口頭での申し送りを徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様と話し合いその時々ニーズに対してできる範囲で支援を行っている。次の課題にあげ取りおく努力をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し本人の暮らしにあったサービスをしている理美容や買い物等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回往診、受診が必要であれば家族に依頼難しければこちらで対応している。	月2回訪問診療をおこなう協力医に全員が変更、職員が立ち会い、医療記録に内容を残しています。他科受診は家族が付き添い、日頃の様子を家族に伝えるのも家族の報告も口頭ですが、記録は職員がとっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診のナース、訪看のナースと連携を取り相談をし受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように利用者の状態把握に努めADL低下を抑えられる様早期退院に向けご家族様、病院と連携を取りくんでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時重度化した場合や終末期についてご家族様に説明している。	契約時は『重度化における介護の指針』に沿って説明し、看取りには取組まないことを家族に納得してもらっていると、『意思確認の説明及び同意書』を作成しており、家族の意向を把握のうえ、状況に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故があった場合夜間コールセンターに指示を仰ぎ、往診などで対応をし、緊急時は管理者が対応をしている。防災訓練などで緊急時の訓練も学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内の防災訓練に参加地域との協力体制を整えているなお、施設でも定期的に防災訓練を行っている。	法定訓練は年2回おこない、経験していない職員がいないように順次シフトを組んでいます。夜間想定も実施、建物のオーナーに避難後の外での見守りをお願いしましたが手が足りないため、近所にも手紙を書いてお願いに上がる予定でいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保ができる様対応をしているが、ごく一部の職員がその場に適さない声掛けをしている時はその都度職員に対応について説明を行っている。	トイレの排泄用品はイニシャルで仕分けされ、入浴は希望に応じての同性介助です。業務に追われると行動抑制につながる言葉が出てしまう職員もいるため、深呼吸をして間を置いたり、職員交代したり、チームケアで工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように支援を行い環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになってしまう時もある。その時は職員間で話し合いをし利用者様の希望にそってできるよう時間をかけてでも繋げられるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方には好みの服を着ていただいている。服なども職員と一緒に買い物に行かれたりするが、家族の意向もあるので確認を必ずとり対応をしている。介助の方にはこちらで選び着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな料理を取り入れ利用者様のできる事は一緒に行っている。難しい時も現状ある日もある。	畑の収穫物を使ってメニューを考えたり、野菜の刻みや盛り付けなど、利用者が出来るところは一緒におこなっています。旬のものを取り入れて一汁三菜を基本とし、自慢のメニューは写真撮影して玄関のアルバムに入れ、手作りならではの満足感を来客者にも披露しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のある物を取れるように工夫し水分の少ない方はゼリーなどを作り提供している。個別に体調を崩されている利用者様には工夫をしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行っている。自立の方はご自分で、歯科からの指示や全てができない方はできる所まで行い仕上げはケアしている全介助の方は介助している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な利用者は定時誘導をしているトイレで排泄して自立に向けて支援している。	水分チェックと共に排泄表を用いて一人ひとりのリズムを把握しています。骨折後、紙オムツを使用していた人でも、徐々に離床できるよう支援し、排泄パターンの把握により現在はリハビリパンツで過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物等を工夫し自然排便できる様に支援している。それでも排便が出ない場合は処方された薬で対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は固定されているが本人の意見を聞いている。	週2回を目安とし、現在シャワー浴は1階2~3名、2階1名で、他は湯船に浸かりゆっくりしてもらっており、入浴のない日は陰部洗浄おこなっています。また、クリスマスプレゼントに温泉パックの入浴剤や小判形の入浴剤を選び、楽しんでもらった日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて臥床時間を作ったり、夜間は安心して眠れるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットで共有できる薬ファイル、往診ファイルを作り共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人が喜びのある生活が行えるよう気分転換を行ったり、やりがいを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全員ではないが、ご家族様の協力にて外出支援ができています。施設でも企画を立て行っている。	年間外出行事としては、担当者と主任で行先を決め、安全面の確認をして秋と春に企画しており、個別対応ということもあって家族にも協力を得ています。日常的には、気候による希望に沿って散歩に出かけるほか、ショッピングを楽しむこともあります。	散歩については偏りのないよう、年間外出と同じく見える化できると良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っている本人の必要な物があればお金が使えるよう支援している。数名だがご自分でも管理されている方はいるがご家族様には説明を行っている。職員全員は理解はまだできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらからは電話を掛けてはいないが電話が本人宛にかかってくれば本人が話をできるように支援している。一部携帯をもたれいつでもご家族様と連絡が取れる様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベント、食事の写真を掲示している共有空間には季節が感じられるよう掲示物を貼っている。庭、畑には季節で収穫ができるものを植え収穫をしている。展示物の承諾はご家族様より書類で頂いている。	ユニットはむやみに飾り付けずシンプルで、小物類で和の落ち着いた雰囲気を醸し出しています。手すりは夜間必ず消毒し、床は次亜水で拭き上げ、日中は手指消毒を徹底し、「汚れたらその都度キレイに」を心がけており、清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVを見たり話しのしやすい利用者様が席が近くなるように工夫している。利用者様も自ら職員にその都度声をかけてくださるので、添えるよう対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、家族の写真等を置いて居心地の良い環境を作れるように工夫している。ご家族様御本人様とも相談をしている。	仏壇、鏡台、タンス 化粧品、携帯電話などが持ち込まれています。孫や娘など家族の写真、若い頃旅行に出かけた時の集合写真などに囲まれた居室や、無線が趣味だった人の居室には、関連月刊誌がきれいに並べられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子、自立が生活しやすい様共有スペースの通路を車いすの人でも独歩の人でも通りやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201575		
法人名	加藤建設株式会社		
事業所名	グループホームジョイ上足洗		
所在地	静岡市葵区上足洗2-11-2		
自己評価作成日	令和元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和2年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201575-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年1月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットごと、お料理に力を入れています。施設内の畑にて地域の方の御協力を得て、利用者様と一緒にやるようにしています。今年は初めてスイカに挑戦しました。大きなスイカができ利用者様も喜び、職員、利用者様で召し上がりました。秋祭りには、射的、輪投げなど行い昔を思い出しながらご家族様と喜ばれていました。ご家族様やご本人様の意向を少しでも叶えるように支援しています。今年は、外部からボランティアの方に来て頂けるよう力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると、写真で活動の様子がわかるお便りや地域交流の手紙が掲示されるとともに、自慢の献立メニューがアルバムに収められおり、事業所での毎日が充実している様子が覗えます。今年度は疥癬発症のトラブルに見舞われましたが、これを機に家族の事業所理解が深まり、また「声をかけてください。わからないままだと協力したくてもできない」といった地域からのエールが得られ、協力体制構築に向けて大きく前進しています。管理者を支える主任、リーダーと所内体制を整え、今後は「人員確保」「利用者サービスの向上」「地域資源の活用」を目標に掲げ、確実に実践していきたいとしており、頼もしい限りです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一年前よりも、今年は段々と実践に繋がっている。理念を共有できるように、フロアに提示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流している。又地域の方からの支援もあり御協力頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会にて、現在も認知症の方の事を理解して頂く活動に力を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	去年よりも、参加人数が増し、皆様と共に話し合い意見交換の場をもうけ活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	去年より、少しずつ関係は良好になっていると思う。もっと努力をしていく。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	上司から変わらず厳しく指導は受けており、又他職員にも厳しく促している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	絶対あってはならない事なので、何が虐待になるかなど、会議、申し送り等で防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者以外の職員は、そこまで学ぶ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明、理解、納得は充分に行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や、会議にてその機会を設け意見や提案を参考にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常日頃から、かなり努力はしているが、職員全員が同じ向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ行く職員も増え、代表者も力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修意外に同業者の交流はあまりない。内部研修はあるが現状参加ができていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々熱心に職員全体で細かく観察し、良好な関係を繋げる努力を続けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	即対応させていただく努力を続けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も積極的に取り入れ努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	新規で入られた利用者様も、早い段階で慣れて下さっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会などを行い、ご家族様との時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などを通して途切れる事の無いよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションだけではなく、軽作業などでの様子で相性などを観察をし席の配置にも配慮、努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむをえず契約を終了しなくてはならなくなっても、最後まで最善はつくし、必要であれば終了後もいつでもご連絡頂けるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく意向にそえる様努めているが、困難の場合はご家族様と相談しながら近いものにするよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	解らない時などは、ご家族様に相談し意見を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	とても細かく1日1日職員全員で少しの変化にも気づく様把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと担当者会議などで、話し合いをし介護計画作成の作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化にも気づき、日々記録、申し送り、職員からの報告などにより介護計画の見直しは日々されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向に会う訪問サービスの利用以外にもそれぞれに合った支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内のみならずマッサージ・ボランティア・理美容その他の活用になるが利用者様が生活に必要な事全てが地域資源として考え近辺への外食・受診・買い物などに出かけ支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際はなるべくご本人のカルテのある病院、医院へと。ご家族様がいけない時は職員が付き添いご家族様に結果の報告をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度の往診時に職員が必ず立ち合い状況説明、体調の変化の報告をし適切な看護を受けられる様支援している。訪問看護にても同じ対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表者が必ず病院に行き、病院関係者、ご家族様と相談をし対応をしている。必ず協力機関には報告をし連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様、ご本人には十分な説明はされている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	在宅へのコールセンター対応医師からの指示を仰いでいるが、今後応急手当、初期対応の訓練を視野に入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練により夜間の対応についても消防署員からの指導を受けており、地域の方にもご協力頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に努めているが、職員全員が万全になる努力は必要。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に違うが、思いや希望を表して下さっている。自己決定できる様働きかけているが、安全性を重視してしまっている部分もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく一人一人のペースに合わせているが、その日の希望に添ってはいない現状はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方については、自由に選択できるが、そうでない方については、声掛家にて洋服の確認をしている。又理美容利用を活用をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が座りながらも、作れるものなどの企画を立てたり、普段の食事でも可能な限り日常的に片付けなどを行って下さる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の量の調整や、水分量は特に気を使っている。口腔内や、体調に応じて主食を工夫している。飲み物ゼリーなどで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・朝・昼・夕食後就寝時必ず行っている。義歯の扱いにも気をくばり対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方は自由に行かれるが、きちんと見守りは行き、できるだけ排泄をご自分でできるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人その人の排便時間を記録をし食物繊維を多くしたり、乳飲料の工夫、それ以外で、排便を促がす薬品処方にて対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は決まった曜日に順番に入って頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員全員でとても努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に主治医や薬剤師にその都度訪ね、結果を職員全員が理解するように書類に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント企画を立て、季節に応じて実施している。不穏時などは、ドライブなどにも行ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様がとても協力的でご本人様と外出されることが多く、お祭りなどの参加もされている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理される方はしていただき、そうでない方は、金庫にお預かりをし欲しい物を職員と買いに行かれたり様々である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を使用する事はできないが、ご家族様からの電話に出られることもある。手紙については、ご本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を重視し、無駄な物は置かないようにしているが、季節感は味わっていただく様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で居室の行き来はされており、居室へは入れる方と、自由にされている。皆様大体フロアに集まり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅の自室の物を持って来られる方が多く、ご家族とその都度相談し使用できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には、気を配っている。足元に物を置かないなど、トイレなどの場所が分からなくても案内をさせて頂いている。		